



「スピカ」は農業の女神である乙女座の1等星です

Vol.475

1・2月号

JANUARY

1

FEBRUARY

2

生活クラブ

〒333-0857

埼玉県川口市小谷場 206

TEL 048-424-2763

FAX 048-424-2796

2024年

1月1日発行（隔月発行）

特集

ひろげよう 伝えよう 話そう 平和の種蒔き！

ピースアクション
in
ヒロシマ

～未来につなぐ
ヒロシマのこころ～

PEACE ACTION
in HIROSHIMA



組織数と利用

● 11月末組合員数 組合員数 36,428名 共同班 5,114名 個配 26,855名 デポー 4,459名 対期首（2023年4月～）-14

● 利用高（2023年11月1回～11月5回）※展示会除く 総額 1,075,444千円 世帯当たり平均 34,046円 共同班平均 29,783円 個配平均 34,898円

西川 裕美 さん
 (熊谷ブロック 北本支部)
 家族/夫とふたり暮らし



お気に入りの消費材♡

【固形せっけん】
 赤ちゃんや洗髪・からだ、なんでも洗える純せっけん。旅にも持参。
【遊 YOU 米】
 この名前を組合員がつけたときに、コメ担当で関わっていたので思い入れあり。

せっけん運動を通じて、全国に仲間ができました！

37年前に組合員になってから活動一筋の西川さん。活動の合間には山歩き・スキー・ウクレレなども楽しんでます。北本市のごみ減量市民大会初日、北本市役所ロビー展示会場にてせっけん活動を中心にお話を伺いました。

生産者の言葉に感動し加入

1986年のチヨルノーベリ(チエルノイリ)の原発事故当時、幼稚園のお母さんとの会話で「生活クラブの生産者が放射能の入っているものを組合員に食べさせるわけにはいかない、と言っている」と聞き、そんなすばらしい生協があることに感動し加入しました。当時は「乾物生協」と呼んでいるほど消費材の取り組み数が少なく、支部委員長を受けた年に半年で新規組合員が250名加入し、1000名を達成して肉の冷蔵ラインを導入しました。同じ目的を皆で達成する組合員活動の楽しさをこの時に知りました。

せっけんの利用を増やすことに夢中になる

もともとせっけんに関心があり、北海道でシャボン玉フォームがあった際にせっけんシャンプーの実演をみたことで、埼玉でもやりたいと参加したメンバーで実行委員会を立ち上げました。埼玉のあちこちで実演することでせっけんシャンプーの利用も増え、その後埼玉の嵐山でシャボン玉フォームがあったときにもせっけんの利用を伸ばそうと奮闘し、熊谷ブロックでは利用率が2倍を超えました。

今すぐできるせっけん使用

現在、活動の柱は「せっけんの利用を勧める」「化学物質から身を守る」の2本。生活クラブの連も活用し、支部からせっけんの講座の要請があれば出向いていきます。メンバーのひとはせっけんを使用する美容院を立ち上げたのでみんなで利用し応援しています。北本市の市民大学では、「生活の知恵」というテーマで講師をしていて、ナチュラルクリーニングやダウンスジャケットをせっけんで洗う講習などもしています。化学物質から身を守るために合成洗剤からせっけん使用に変えることは今すぐできること、やらないのはとてももったいないことだと思います。



自宅から持参した段ボールコンポストで、来場者に熱心に説明

忘れられないうエピソード

こんなことがありました。自転車で走行中に対向車が急に停まり、降りてきた方が私のところに駆け寄り手を握って感謝の言葉を伝えてくれました。市民大学を受講してくれた方で、美容院で髪染めやシャンプーをすると頭が痛く布団をかぶって寝込んでしまうと話していた当時から想像できない明るい表情で！「化学物質で困っている人を助けたい！一人ひとりを大切に考えて活動してきた私にとって、とても嬉しく忘れられない出来事です。」

これまでの活動は、熊谷ブロック環境平和委員会の方々をはじめとした多くの組合員・地域の方々等の繋がりの中でできたことと感謝しています。

2023年10月16日取材
 編集ワーカーズ・ふれあ



活動の様子が掲載されている、生活クラブ20周年記念誌「時を越えて」

活動ファイル ~こんなことをしています~



↑地球温暖化クイズに挑戦
 ↓地球温暖化クイズに解答



消費電力量の記録↓

測定項目	測定値	単位
消費電力量	12.5	kWh
表面温度	25.0	℃
室温	20.0	℃
外気温	15.0	℃
湿度	60	%
気圧	1013	hPa

川口ブロック

子どもたちと一緒に

「地球温暖化」について考える

— 今、私たちができること —

2023年夏、川口支部では、夏休み企画として親子で「地球温暖化」について考える、地球温暖化クイズと家電の電力量測定、表面温度計を使った温度測定を実施しました。

【地球温暖化クイズ】

クイズを解きながら温暖化による地球の自然現象の異常や、太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーについて学習しました。

【電力量測定・表面温度測定】

川口市で貸し出しをしている測定機材を使って、事前に参加者に渡し家庭内の電力量や表面温度を測定してもらいました。

電力量測定は、測定をする前に

参加者からは「温室効果ガスが増えて、地球の温度がどんどん高くなっているのを初めて知った。」「子どもと一緒にやることでお互いが意識するようになりよかった。」などの感想がありました。

川口支部 山本 優子

どんな家電が一番電力を使うかを予測して、実際の結果との違いを比較したり、家電を使用している時としない時の電力量の差についても測定しました。

表面温度測定器を使って、道路へ水をまく前とまいた後の温度の比較。窓の日差しをささげるカーテンや、雨戸を閉めた時の温度の違いなどを測定しました。

生活クラブは、自然と共生し、食べ物 (Food)、エネルギー (Energy)、福祉 (Care) をできる限り自給・循環させる「FEC 自給ネットワーク」づくりをすすめています。

FEC 自給ネットワーク

今年4月、福島県の海側から飯館村・土湯温泉町・会津の三地域の再生エネルギーの現場を訪ねました。太陽光・温泉による地熱・水力・廃材利用のバイオマスと、それぞれの地域の特性を生かした方法で電気を作っていました。そこに共通しているのは「地産地消のエネルギー」という事です。飯館のソーラーパネルは雪深い地域に合わせ、パネル角度を通常よりも急角度にしています。土湯温泉町では140℃の温泉を利用した地熱と、豊富な水量と急流を利用した水力発電が特徴的です。会津電力の佐藤彌右衛門氏の「安全を謳ってきた原発への怒りから再生エネルギーを作ることにした。国会にデモには行けないが再生エネルギーを作ることこそが脱原発の力になる」という思いから始まった事業は、他の福島地域に広がっていきました。規模が大きければリスクも大きくなります。福島の原発が止まり、首都圏への電気供給が大きな影響を受けたことは、今では誰でも知っていることです。福島から300km以上も離れた首都圏へ大きな電力を送ることの矛盾と無駄。野越え山越えして遠くまで電気を送ることがないので送電ロス(4.5%〜5%

福島の再生エネルギーに未来を見る

ほど) もありません。

福島では電気は地産地消という考えのもと、会津で88か所、飯館で64か所とそれぞれの地域ごとに電気を作っています。作り上げたのは住民の方々、雇用も生まれ、収入も地元に戻ります。電気も食べ物も、地元で作られ消費することが未来への道ではないでしょうか。

入間支部 北原 修



地熱発電施設



100Vコンセントが点いている飯館電力

PEACE ACTION in HIROSHIMA

ひろげよう 伝えよう 話そう 平和の種蒔き！

生活クラブ埼玉では戦争を知らない親子や次世代に、平和の大切さを学び伝えていくために
組合員カンパを呼びかけピースアクションinヒロシマに親子派遣を行いました。



戦争と、その責任は

- 戦争は、始めた人たちより、弱いもの(女性・老人や子供たち)に被害が及ぶ。そして、何よりも、子供の未来を奪う。
- 戦争は国の名によって(その時の政府や権力者によって)始められる。しかし、その被害と責任は、国民が負わされる。
- 戦争と核兵器は人の手で始められ、つくられた。
人類の手で、無くさなければならない。

ピースアクション in ヒロシマ

～未来につなぐ
ヒロシマのこころ～



ヒロシマ平和ポスター展2023「広島平和ポスター学生コンペティション」学生選出作品とともに展示
ヒロシマ・アピールズ2022 佐藤可士和氏 作品

今回親子で平和について考えることができると思い応募いたしました。
現代人は世界で今何が起きているか、いつか自分の身に降りかかるかもしれないという危機感を持つべきだと感じました。
私も自分ができる平和活動をして子ども達にもしっかり伝えていきたいです。皆様のカンパで行かせていただきありがとうございます。
小池真紀子 (母)

学校では教えてくれないことを学べたのでよかったです。
小池絢子 (小6)

(所沢ブロック ふじみ野支部)

被爆者が現在も苦しめられている現状や癒えない傷と戦い続けている現状に涙が出た。
広島県は平和教育や芸術家たちも含めて平和への思いが高い地域であり、現地に行き学ぶ機会はとても貴重で重要な経験であった。被爆国日本に生まれた私たちが風化させてはいけないと心から強く思った。
加倉井聖子 (母)

身近な平和に関して、日々の暮らしの中で考えたい。
加倉井詩夏 (中3)

(川口ブロック 浦和東支部)

ピースアクションとは全国の生協で、くらしの中から平和への思いを考え語りあう活動や、戦争・原爆展、被爆体験者の証言を聞く集まり、戦跡や資料館の見学、署名運動と、さまざまな平和活動に取り組むことです。



ピースアクションで見て聞いて感じたことを大切に、今だけにならないよう、家族や仲間・地域に平和の種蒔きをしていきたいです。
石井由美子 (母)

実際に広島県に行って学習したことで視野が広がった感覚があります。核兵器のない世界を目指していきます。
石井すみれ (小5)

(熊谷ブロック 鴻巣支部)

人によって国によって考え方や捉え方が違う平和。
この時期ヒロシマでその場でしか感じることができない貴重な体験を伝え繋げていきたい。
ご支援いただきました皆様に感謝いたします。



もうコレ食べた？

生活クラブだからこそ、安心して利用できる、
こだわり消費材の魅力を連載でお伝えします。

これ好き！スライスソーセージ

100g (2mm×8枚入り)

皆さん「これ好き！スライスソーセージ」はもう食べましたか？生活クラブ長野の組合員と豚加工肉の提携生産者(株)平牧工房と一緒に作った、2023年9月デビューの新しい消費材です。30～40代の子育て世代を含む組合員総勢15名が参加し、全4回の会議を通して消費材開発が行われました。

豚加工肉の利用はソーセージが最も多く、次いでハムでしたが、近年ハムよりベーコンの方が多くなっています。メンバーはまず、スーパーマーケットなどでハムの市場調査を行いました。市販品は価格面、包材含め色々なタイプのハムがあり、添加物、特に発色剤を使ったピンク色のものが多く、国産原料のハムは少ないことがわかりました。使い勝手がよく、若年層が利用しやすいハムとは？組合員にアンケート調査を行い、その結果をもとに意見交換を重ね、「国産の豚肉を使用」「手頃な価格」という方向性を明確にし、「巻けるハム」「そのままでも加熱してもおいしく食べられる味」をめざして、試作と試食を繰



り返しました。その結果誕生したのが「これ好き！スライスソーセージ」。あれ？ハムじゃなくてソーセージ？

皆さん、ハムとソーセージの違いをご存知ですか。ハムは塊肉をそのまま加工しますが、ソーセージはひき肉を加工します。ハムの課題を解決するために、ソーセージを作ることになったのです！粗挽きにしたウデやモモなどをバランスよく配合し、巻いたり丸めたりしやすい弾力があって、しっとりとした食感と和風だしの味わいの良さ。さらに、手頃な価格も実現しました。

「これ好き！スライスソーセージ」は野菜をたくさん巻いても、味付けしないでおいしく食べられます。子どもにたくさん野菜を食べてほしいと願う、子育て世代の組合員には特におすすめです！

★ 理事会報告 ★

(10月-11月)

●【生活クラブでんき下期スイッチングキャンペーン】

再生可能エネルギーを広め、脱原発、脱炭素を進めるために、生活クラブでんきスイッチングキャンペーンを1月29日(月)～3月29日(金)に開催します。キャンペーン期間中に生活クラブでんきへ新規契約された方には、生活クラブでんきブランドグッズをプレゼントします。

●【新たな配送形態「ペア配送」の導入】

組合員同士のつながりづくり・仲間づくり・日常の支え合いを目的として、個別組合員同士の「ペア配送」を2024年度9月の導入に向けて準備をすすめます。「ペア配送」の導入によって紹介活動の新たなツールとして盛り上がりをつくり、拡大活動を展開します。制度の運用ルールは今後決定します。

●【Instagram生活クラブ埼玉公式アンバサダー】

「生活クラブアンバサダー」を任命し、Instagramを通じ、お気に入りの消費材や生活クラブの魅力を発信してもらうことで、生活クラブの認知を高め、共感する仲間づくりを展開します。

投書コーナー



「生活クラブでやってみたら楽しかったこと！」

● 支部運営で消費委員、展示即売会の実行委員もして大変な思いをしましたが、生産者から様々な貴重な濃いお話を沢山聞く事が出来、それまでの苦勞が報われて、とても楽しかったです。消費委員、私の「推し」です。
食わず嫌いさん

● 支部運営委員当選のお知らせハガキを受け取ってから6年。その頃は仕事が忙しかったので積極的に活動できなかったけど、組合員の友達ができた事で情報交換やたすけあいに参加するなど地域の繋がりを持つことができました。支部運営委員になって良かった♪さん

2024年 5・6月号のテーマは…

「あなたの落ち着く『居場所』を教えてください」

投書方法

テーマに関して、意見やみんなに伝えたいことなどをお寄せください。原稿は100字以内で！

投稿してくれた方から抽選で5名に「ひび努力あられ」をプレゼントします。はがき、FAX、WEBサイトフォームから受け付けます。



〈※切：1月31日※必着〉

WEBフォームはこちら→



〒333-0857 川口市小谷場206
生活クラブ埼玉本部(スピカ担当宛)
FAX:048-424-2796

生活クラブの平和活動って？ ～知る努力と語り継ぐ大切さ～

誰もが平和を願っているはずなのに、ちっとも平和な世界はやってきません。平和は一人一人のたゆまぬ努力でつくっていくものだからでしょう。

生活クラブの平和活動とは、安全で豊かな食を望む私たちが、むごい事実から目を背けず、学ぶことからはじめ、協同の力をいかして平和のための行動を続けることではないでしょうか？

生活クラブ埼玉では、食を通して平和を考え、様々な学習会や上映会を開催。各ブロックでの憲法学習会や平和関連施設の見学会など多様な取り組みが行われてきました。

2011年の福島第一原発事故以前から、使用済み核燃料再処理工場の危険性に着目し、埼玉全体で脱原発運動を進めています。再生可能エネルギーを推進するため、2016年より、『生活クラブでんき』の供給を開始。平和と民主主義のゆるぎない社会づくりのため、再エネ推進の署名活動などを行い、政

府に原発推進方針への抗議と撤回の意見書を出しました。

地球沸騰化により食をとりまく環境を守ることが平和につながることを実感する時代に突入し、今後はすべての活動の前提となる平和の活動を推進、戦争・核兵器のない世界を目指します。



9/18 ワタシのミライでの署名活動

※各センターには過去の講演会記録、平和に関するDVDや蔵書があり、貸し出しも可能です。

なんでも



聞いてみよう

生活クラブ埼玉は、どうして脱原発活動をするのですか？

きっかけは、重茂のわかめが放射能で汚染されるのを防ぐためです。

青森県六ヶ所村にある原子力発電所の使用済み核燃料再処理工場が本稼働すれば、岩手県沿岸の重茂の先まで放射性物質が流れていきます。福島第一原発から出ているALPS処理水をはるかに超える放射性物質が日常的に放出されます。

私たちの食物も汚染されることになるので、2006年、生活クラブ埼玉全体で反対運動を開始。原子力発電に頼れば、適切な廃棄方法のない使用済み核燃料がこれからも増え続けることになります。発電によ

り生成されるプルトニウムの寿命はおよそ2万4千年(半減期)、2011年の福島第一原発のように、ひとたび放射性物質を環境中に放出してしまうと汚染は半永久的に続きます。

健康な暮らしと命を奪う危険な原子力発電施設が、日本に廃炉が決定したものを含め57基、海岸沿いに立ち並んでいます。事故だけでなくテロの標的になる危険性が高い原子力発電はストップさせ、省エネと再生可能エネルギーをすすめていきましょう。

紙面アンケートにご協力ください。

単協機関紙スピカの紙面を充実させていく為、紙面評価アンケートを行っています。

QRより紙面アンケートを受け付けています。

〈※切：2月末まで〉

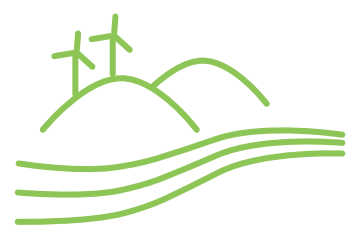


詳しくはこちら↑

紙面アンケートに
ご協力ください

再生可能エネルギー政策と地域社会づくり

ドイツ・デンマーク視察報告



昨年9月に生活クラブエネルギー事業連合主催の「再生可能エネルギーによる地域づくりを進めるドイツ・デンマークへの視察」が行われ、埼玉からも2人の理事が参加しました。

視察では洋上風力見学や原発廃炉後の状況のレクチャーなども受けましたが、ここでは小規模な地域での再エネの現状について報告します。

再生可能エネルギー 100%の島、サムソ島

人口4,000人に満たない小さな島が、デンマーク初のエネルギー自活プロジェクトにより、太陽光、風力、島の中で出された間伐材や麦わらを利用した再生可能エネルギー 100%の地域となりました。今ではデンマーク国内外から、毎年5,000人もの方が訪れプロジェクトに関する会議やワークショップが行われ、再生可能エネルギーを象徴する島となっています。



再エネプロジェクトの中心メンバー
ゾーレン・ハーマセンさん



島の港に設置してあるボート用の充電器
港の中では再エネの電力しか使えません

地域熱供給システム



地中に埋められるパイプ（温水が循環する）



温水を貯蔵するタンク

ドイツ、デンマークともに地中に埋められたパイプを通して、温水を地域に供給しエネルギーとして利用するシステムがあります。麦わら、木質チップ、他の産業からの排熱などを使い60℃の温水を作り、地域に循環させ熱交換器によって暖房と給湯として使います。40℃になって戻ってきた温水を再びエネルギーとして利用します。また、エネルギー自立地域では、市の公用車はすべて電気自動車が使われ、小学校の屋根には太陽光発電機が乗せられていました。



ライン・フンスリュックでは再生可能エネルギーを売電して得た資金で観光に力を入れています

視察中、省エネという言葉が事あるごとに耳にしました。ドイツでは原発廃炉を進め、再生可能エネルギーを利用しながら暮らしの中では省エネを同時に行っています。生活クラブでも、これに習って再生可能エネルギー由来の生活クラブでんきの推進と同時に省エネの発信を豊富化していきたいと感じました。

文：相沢順子 写真：鳥山直人